



H21.11.3 撮影

埋立部	栈橋部
接続部	連誘部
環境	その他
工種名: 計測杭打設	

現在、栈橋部では鋼管杭打設及びジャケットの据付作業が日々進められています。今回は、ジャケット据付のための基礎杭(計測杭)の打設についてご紹介します。

ジャケットの基礎杭となる鋼管杭は、1600mm、全長約90m(1本杭)もあり、地震時の変形を計測するために各種計測器(ひずみ計(光・電気式))が設置されています。基礎杭は、杭打船により現場で建て込みがおこなわれ、最初に自重による自沈及びパイプロハンマーによりA.P.-55m程度、地盤に打ち込み、最後に、油圧ハンマーにより支持地盤A.P.-87m程度まで打設されます。 [【クリック】関連日記 第50号](#)
滑走路部及び平行誘導路部の鋼管杭に設置

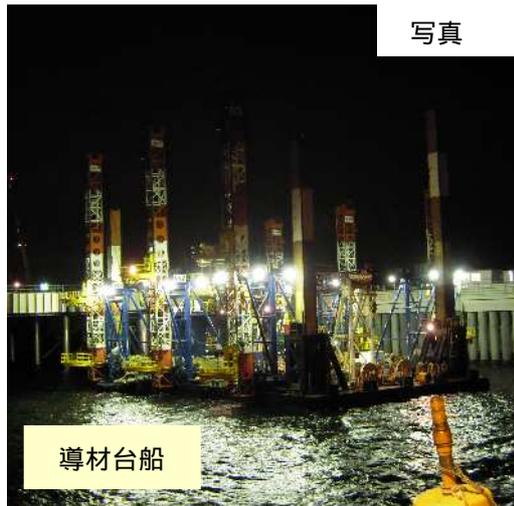
【計測杭仕様】 杭長: 約90m 杭径: 1600mm 最大肉厚: 57mm 重量: 約149t

写真



杭打船

写真



導材台船

打設の流れ

写真、 : 杭打船により、導材台船に杭を設置。

写真 : 自沈・パイプロハンマーによる打設。

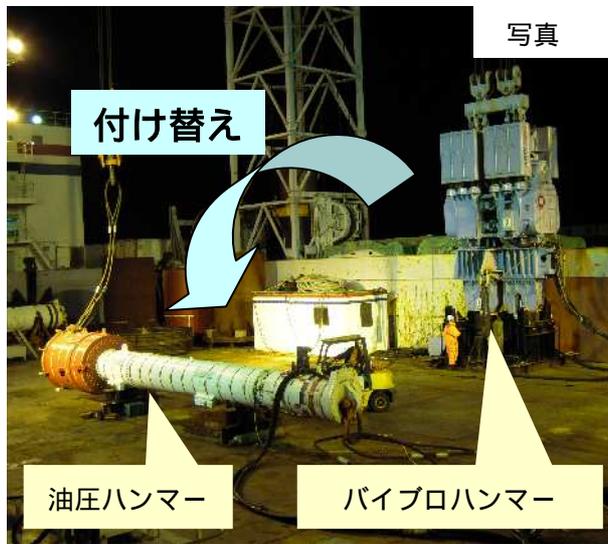
写真 : ハンマーの交換

写真 : 油圧ハンマーによる打設。(回数: 約4000回)

写真



写真



付け替え

油圧ハンマー

パイプロハンマー

写真



最大打撃エネルギー:
約280kJ